

仙果作
豊國畫



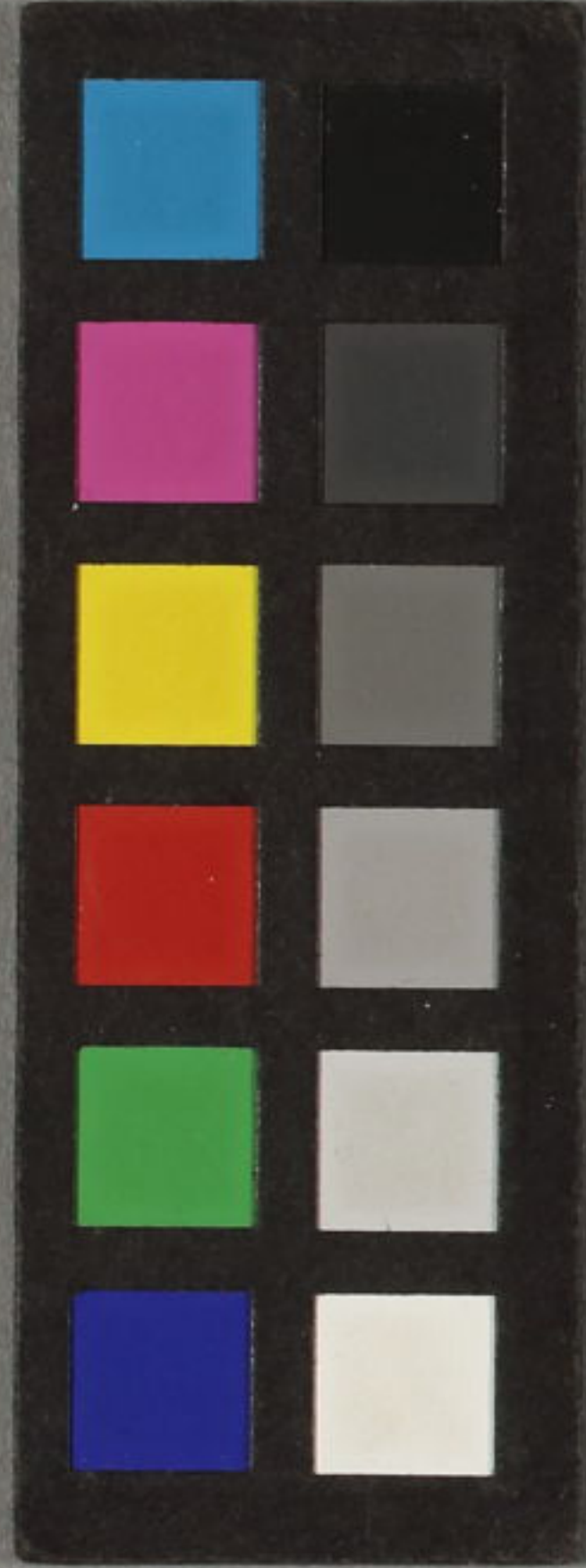
十三編

一名
尖傳犬の神紙

十三編



十三編







康成規春宮事仙果

草冊子の序文をうむ骨折の物なり初巻を以て終年を
 よむ程の書物何戯作者を以てしむる縁語と云ふ
 愚作を果下し評判を願ふの如何と書ても無益の贅
 やもまた憎まれ口画蛇ののり食まひ及ねまはるも
 繪のそとてまけし本と繕と外か所謂まらり
 考みてた見渡しのよるをどうりわのゆり
 序文多しの一言と縁語
 由秀向も用の坐記
 実の趣向小尺果る故
 在これのあつては
 上の関ね麻
 沸たきわ

雪梅
 芳譚
 仙果鈔録
 豊國画圖

紅英堂持



大の西
 十三編



六十三

破傷風の妙薬と

井井竹
通心
真石
圖



六十三

盟友米須賀修治



〇此の山は昔の山に
 今も昔も同じ山に
 〇此の川は昔の川に
 今も昔も同じ川に
 〇此の村は昔の村に
 今も昔も同じ村に

〇此の山は昔の山に
 今も昔も同じ山に
 〇此の川は昔の川に
 今も昔も同じ川に
 〇此の村は昔の村に
 今も昔も同じ村に



〇此の山は昔の山に
 今も昔も同じ山に
 〇此の川は昔の川に
 今も昔も同じ川に
 〇此の村は昔の村に
 今も昔も同じ村に

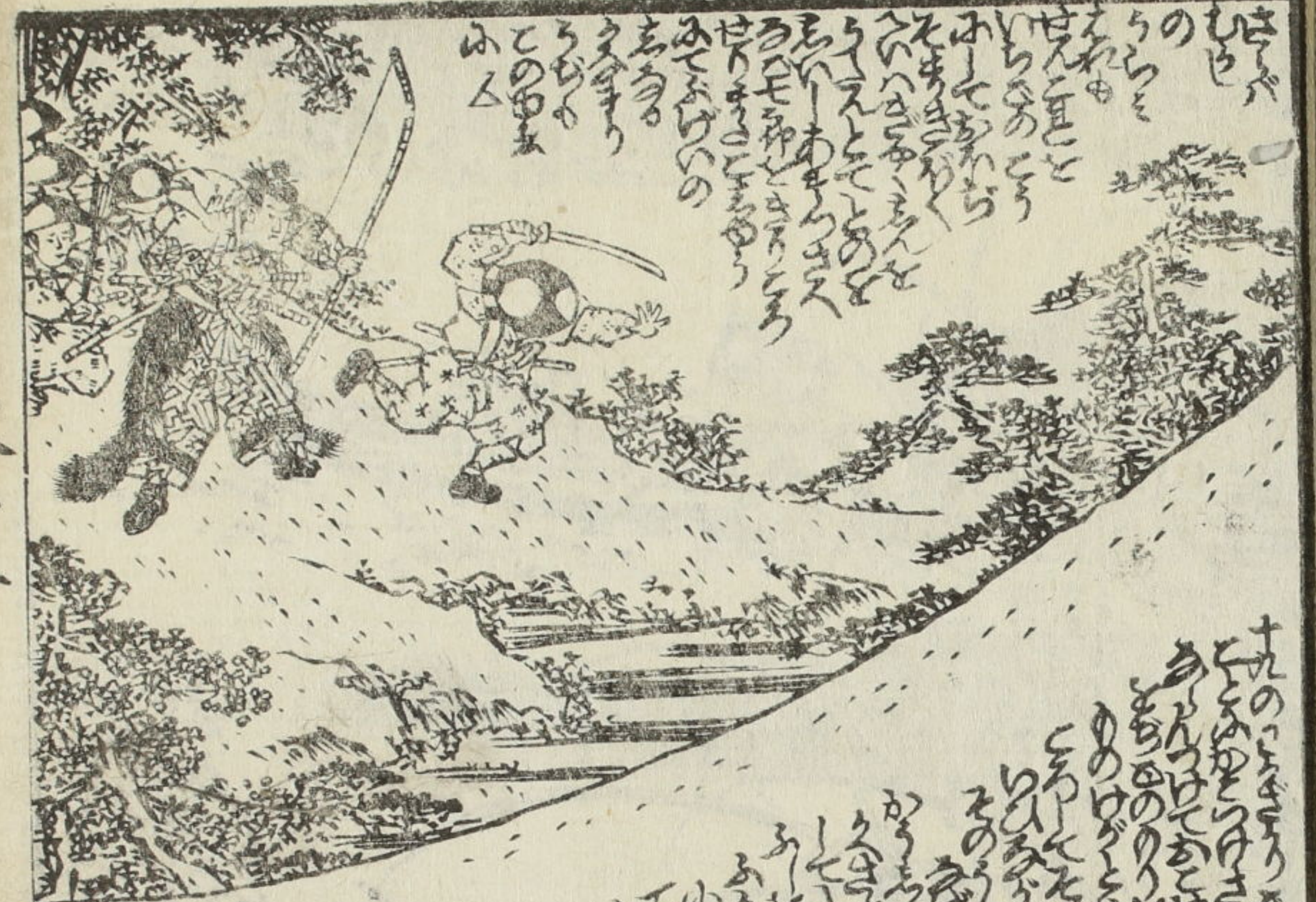


△ かくこ
あなま
こひら
あなま
あなま

△ かくこ
あなま
こひら
あなま
あなま

△ かくこ
あなま
こひら
あなま
あなま

△ かくこ
あなま
こひら
あなま
あなま



△ かくこ
あなま
こひら
あなま
あなま

△ かくこ
あなま
こひら
あなま
あなま

△ かくこ
あなま
こひら
あなま
あなま

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page.

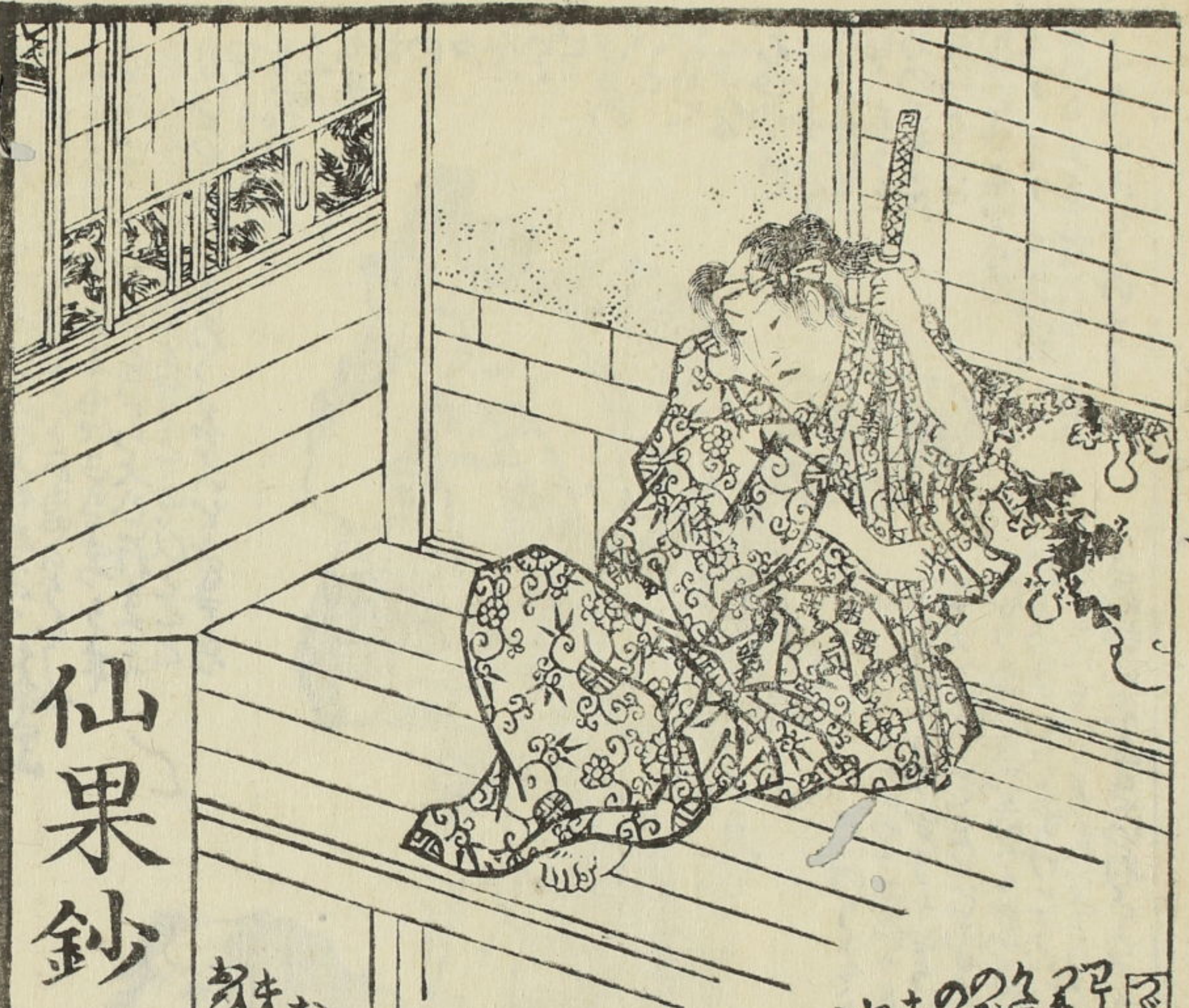


Handwritten Japanese text at the bottom of the right page, including a signature.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the left page.



Handwritten Japanese text at the bottom of the left page, including a signature and a box with characters.



仙果鈔録

豊國書

Handwritten notes in cursive script, including phrases like 'おののつらさ', 'おののつらさ', and 'おののつらさ'.

無さるえり
おろろい
さる
ちる

八早
文

地本
錦繪板元

中より南傳馬町一丁目
紅英堂 葛屋吉藏

けいふ奉る品々

白芙蓉
一色三十二文
曙
一色三十二文

おろろい
さる
ちる







仙果作
豊國畫

十三



「はなはちこの世の世は...」
その世の世は...
はなはちこの世の世は...
その世の世は...
はなはちこの世の世は...
その世の世は...
はなはちこの世の世は...
その世の世は...
はなはちこの世の世は...
その世の世は...

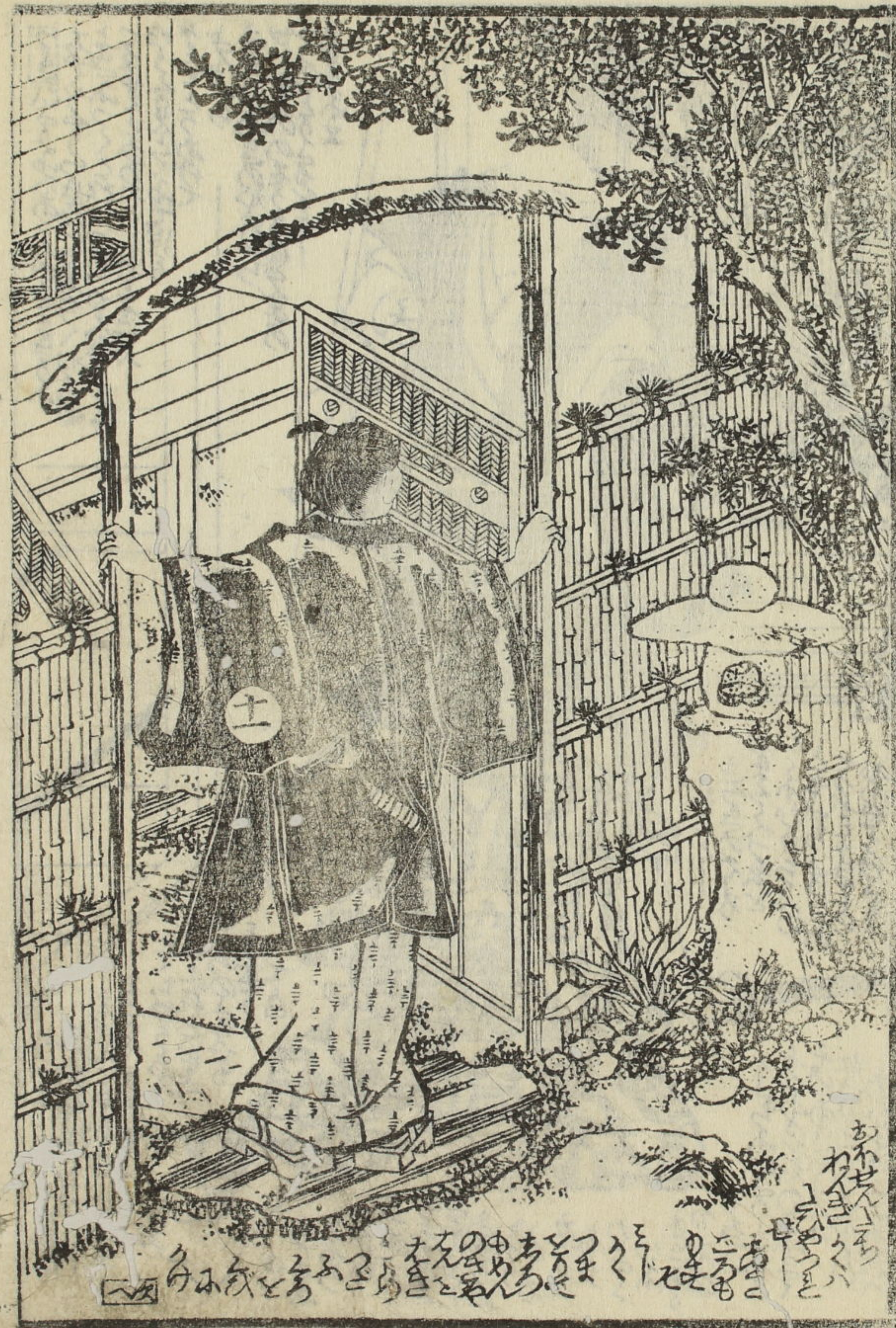


「この世の世は...」
この世の世は...
この世の世は...
この世の世は...
この世の世は...

「はなはちこの世の世は...」
その世の世は...
はなはちこの世の世は...
その世の世は...
はなはちこの世の世は...
その世の世は...
はなはちこの世の世は...
その世の世は...
はなはちこの世の世は...
その世の世は...



「この世の世は...」
この世の世は...
この世の世は...
この世の世は...
この世の世は...

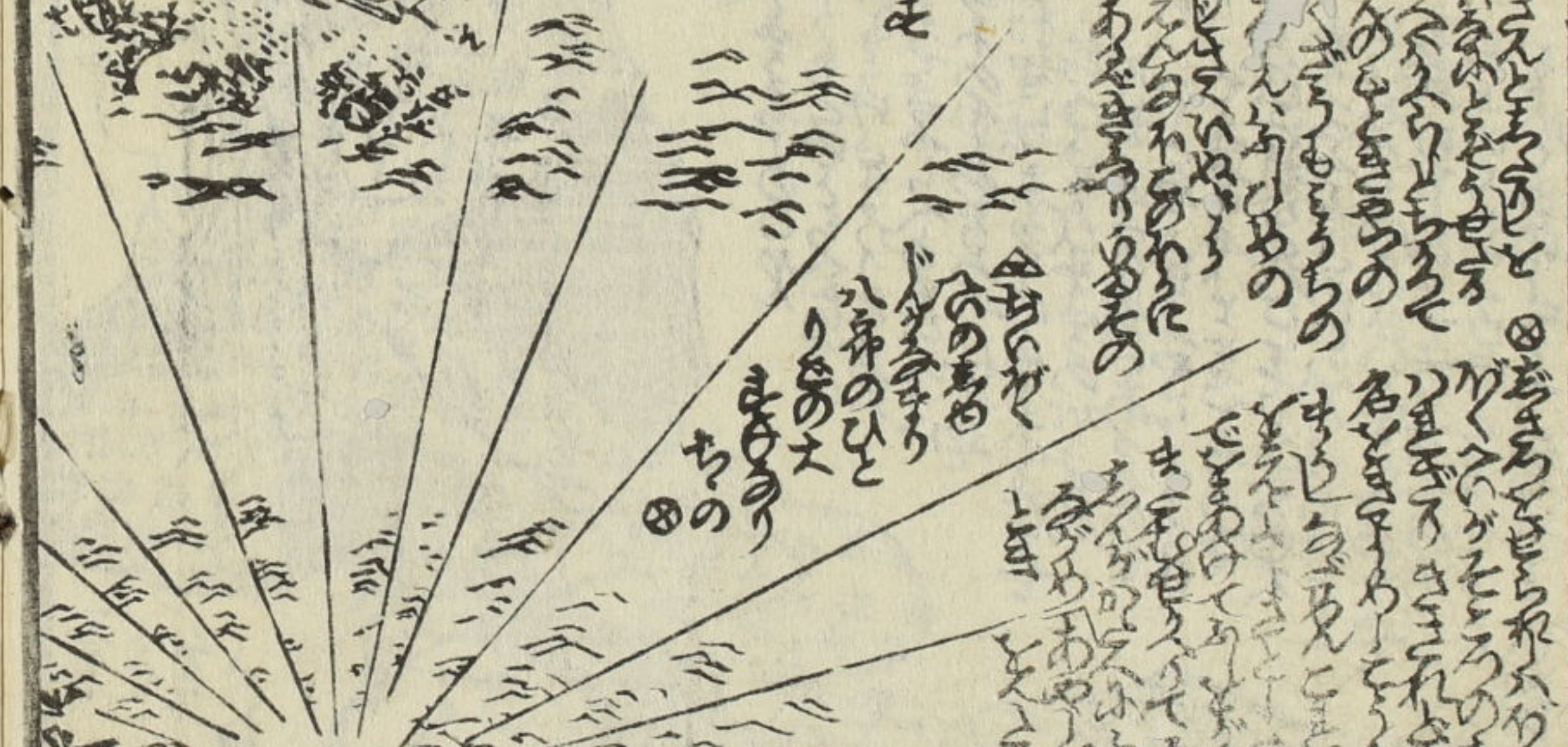


あなせいの
わんせいの
うんせいの
おんせいの
あなせいの
わんせいの
うんせいの
おんせいの
あなせいの
わんせいの
うんせいの
おんせいの



あなせいの
わんせいの
うんせいの
おんせいの
あなせいの
わんせいの
うんせいの
おんせいの
あなせいの
わんせいの
うんせいの
おんせいの

此の河は昔より水が流れるに
あつたが、今は水が流らな
く、砂が流れるに過ぎない
のである。昔の人は、この
河を渡るには舟を使ひ、
今は舟を使ふ必要はない
のである。昔の人は、この
河を渡るには舟を使ひ、
今は舟を使ふ必要はない
のである。昔の人は、この
河を渡るには舟を使ひ、
今は舟を使ふ必要はない
のである。



山は山の、河は河の、村は村の、
田は田の、道は道の、家は家の
ものである。山は山の、河は河の、
村は村の、田は田の、道は道の、
家は家のものである。山は山の、
河は河の、村は村の、田は田の、
道は道の、家は家のものである。
山は山の、河は河の、村は村の、
田は田の、道は道の、家は家の
ものである。山は山の、河は河の、
村は村の、田は田の、道は道の、
家は家のものである。



この山は
十の山
あり
ふたつ
あり

山の
ふたつ
あり

この山は
十の山
あり
ふたつ
あり

上段の文は、物語の背景や登場人物の心情を説明している。
 文は縦書きで、右から左へと書かれている。

下段の文は、物語の主要な出来事や対話を記述している。
 文は縦書きで、右から左へと書かれている。



上段の文は、登場人物の対話を示している。
 文は縦書きで、右から左へと書かれている。



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or transcription of the scene below. The text is dense and covers the upper portion of the right page.



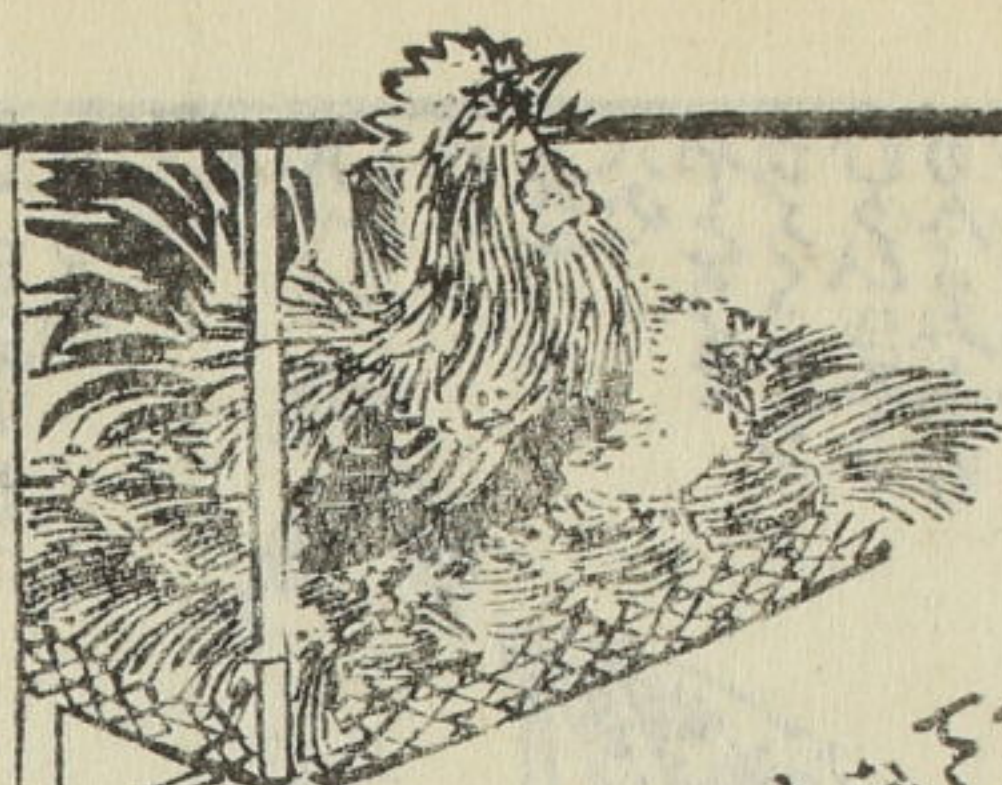
Handwritten text at the bottom of the right page, possibly a signature or additional notes.

Handwritten text in vertical columns on the left side of the top illustration. The text is dense and covers the upper portion of the left page.



Handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or additional notes.

豐國画



豊國画の巻頭は、鶏を籠に閉じ、其の雄雌を辨るる事あり。此の巻頭は、鶏を籠に閉じ、其の雄雌を辨るる事あり。

此の巻頭は、鶏を籠に閉じ、其の雄雌を辨るる事あり。此の巻頭は、鶏を籠に閉じ、其の雄雌を辨るる事あり。



仙果鈔録



此の巻頭は、鶏を籠に閉じ、其の雄雌を辨るる事あり。此の巻頭は、鶏を籠に閉じ、其の雄雌を辨るる事あり。

嘉永三庚戌春新版日録

<p>甲越武功傳 全二冊 一猛齋芳虎画</p>	<p>古今草紙合三編四編 一雄齋國輝画</p>	<p>一名 笠亭仙果鈔録 雪梅芳譚大の艸紙 八編九編十編 一陽齋豊國画</p>	<p>大晦日曙草紙十五十六編 一陽齋豊國画</p>
-----------------------------	-----------------------------	---	-------------------------------

<p>地本板元 葛屋吉藏</p>	<p>東都中橋南傳馬町二丁目</p>	<p>新靱田舎物語 三編四編 一雄齋國輝画</p>	<p>御贄美少年始 四編五編 一雄齋國輝画</p>
------------------	--------------------	-------------------------------	-------------------------------

